

マリア・オピ先生マスタークラスレッスン報告書

日時：2019年2月20日

場所：L506室 通訳：飯野明日香

オピ先生は、セルビア出身のピアニストでブタペスト・リスト音楽院、ベオグラード・モクラニャツ音楽学校を満場一致の優秀な成績で終了。数々の国際コンクールでの受賞歴を持ち、現在ストラスブール音楽院を中心に後進の指導に時間を注いでいる。

今回のマスタークラスでは室内楽を中心に指導され、受講生からの感想を報告させていただきます。



C.ドビュッシー／ヴァイオリン・ソナタ短調 より第1楽章

大学院2年生

たくさんのインスピレーションを得られたレッスンでした。先生はひとつひとつの音に、音質や和音のバランス、イメージについてアドバイスをくださり、時代背景についてもお話くださいました。大事なことはすべて楽譜に書いてあると仰っていましたが、この言葉はこれから先、この曲の勉強を進める上でとても大切なことだと思いました。



F.プーランク／オーボエ、ファゴットとピアノのための三重奏曲より第3楽章

大学院 2 年生

プーランク作曲のオーボエ、ファゴットとピアノのための三重奏曲より第3楽章を見ていただきました。3楽章は、どういう風に音楽を作っていけば良いのか悩んでいたのですが、先生は音質の選び方やリズムの捉え方などを様々なものに例えながら丁寧に教えて下さいました。レッスンを受ける前は、場面ごとの変化を上手く付けられずにいたのですが、リズムを意識すること、ロマンティックに作ろうとしないこと、それに見合った音質にすることなど、先生のアドバイスで3楽章の音楽の方向性を掴むことが出来ました。



W.A.モーツァルト／クラリネット協奏曲イ長調 K.622 より第1楽章

大学院 1 年生

今回は、オケのリダクション作品における伴奏法という観点で、モーツァルトのクラリネット協奏曲 第1楽章 をご指導を頂きました。弦楽器の繊細な表現、また、如何にしてソリストが気持ちよく吹けるようサポートするか等、様々なことを学ばさせて頂きました。



F.メンデルスゾーン／ピアノ三重奏曲第1番ニ短調 op.49 より第1楽章

大学院1年生

アンサンブルの際には、自分で分析し、主旋律やそれとのバランスについて話し合うなど、合わせる前に行うべきことがあることを学びました。

よく分からない状態で音楽をしても意味がないので、今後はオピ先生に言われたことを意識してアンサンブルをしていこうと思います。



ブラームス／ピアノトリオ第1番 口短調 op.8 より第1楽章

大学院1年生

オピ先生はまず演奏曲についてどう感じているかを尋ねられ、また先生のお考えもお話してくださり、曲を大きく捉えるのに役立ちました。

また演奏の仕方についても、「水面は静かだけどその下に何か蠢いているように」等、具体的なイメージが掴みやすいご指示をくださり、たいへん有意義なレッスンを受けることができたと思います。

